

令和2年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

第6次黒石市総合計画に基づき、令和2年度に実施した事業の進捗状況について、以下のとおりまとめました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響等により取組が不十分であった事業はD評価、取組を行えなかった事業はE評価としています。

1 自立したまち

(1) 地域コミュニティの活性化で自立したまち(協働)

本分野では、地域住民が主体となり地域の課題を解決することができるよう、黒石力(=コミュニティ力)の強化に取り組みました。分野全体の実施状況としては、11事業中、A評価が1事業、B評価が6事業、C評価が2事業、E評価が2事業となりました。

特に「黒石市ごみ減量化事業」においては、北地区振興対策協議会と業務委託契約を締結し、生ごみ処理コミュニティビジネスモデル事業を開始しました。事業範囲である北地区の延べ770世帯から集めた生ごみを処理機でたい肥化し、430kgの生ごみたい肥を生成しました。たい肥化することでごみ量は、実質ゼロとなり高いごみ減量効果が示されました。

「市民活動への奨励制度の創設」においては、地区協議会が住みよいまちづくりを目的とした自主的に取り組む活動に対し、土木資材等支給事業を統合して黒石市地域のくらしを守る市民活動支援事業補助金を創設することで地域活動の活性化につながりました。今後は、申請に関するマニュアルを作成するとともに、利用のない地区に対し働きかけを行っていきます。

(2) しごとづくりで自立したまち(産業振興)

本分野では、基幹産業である農業がさらに魅力ある産業へと成長するため、農産物のブランド化、新品目の導入拡大、生産性の向上、後継者の育成等に取り組みました。また、地域産業の活性化と企業誘致の推進による雇用の場を確保するため、東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略を推進しました。分野全体の実施状況としては、14事業中、A評価が4事業、B評価が9事業、C評価が1事業となりました。

特に「黒石特産果樹ブランド化推進事業」においては、高収益作物の普及拡大に向けシャインマスカット展示実証圃を10a程度、19本の植栽を設置しました。今後は、展示実証圃を研修の場として活用し、実証圃で得られるデータをマニュアル化することで、未経験者であっても取り組みやすい環境を整備し、普及拡大に努めていきます。

「黒石食ビジネス振興事業」においては、醸造用ブドウの産地形成に向けた取組に加え、高品質ラム肉生産による所得向上のため、「アップルラム」の即

令和2年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

売会を実施し、流通促進に向けた課題を探りました。今後も、国立大学法人弘前大学の指導を得ながら、めん羊飼育技術の向上による増産、めん羊生産者と飲食店や精肉業者とのマッチング支援を行い、所得を得るモデルケースを確立していくとともに、引き続き、りんご、米につぐ新たな分野での高所得農業の確立のため取り組んでいきます。

「黒石 IC ロジスティクスクロッシング推進事業」においては、進出が確定している5社のうち2社が操業を始め、1社は令和3年度の創業に向けて工事等の準備に入り、その他2社も操業に向けて、令和3年度から順次着手していく予定です。企業立地推進のための優遇措置制度は、従前の条例を全部改正し、新たに「企業立地促進条例」を制定し、進出する企業の対象拡大、雇用促進助成金の条件緩和等を行いました。今後は、ロジクロエリア内のインフラ整備の延伸及び戦略用地の拡大手法を検討し、新たに企業誘致できる環境を整えていきます。

2 元気なまち

(1) 歴史と伝統を活かした元気なまち(文化)

本分野では、「こみせ」などの伝統的建造物や歴史的資産を保存・活用することで黒石ならではの観光資源を活かしたまちづくりに取り組みました。分野全体の実施状況としては、6事業中、A評価が4事業、B評価が2事業となりました。

特に「伝統的建造物群保存地区保存活用事業」においては、伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理に対し補助金を交付するとともに、保存地区内の防災設備の維持管理に対する支援を行いました。今後も、伝統的建造物が適正に保全されるようさらに財源の確保に努め、修理・修景を継続して計画的に実施していきます。

「黒石市歴史的景観形成計画に関する事業」においては、黒石市歴史的景観形成計画に位置付けられている「中町こみせ通り」約142m区間において、歴史的景観に配慮した安全な歩行空間を確保する中町こみせ通り道路美装化工事を行いました。今後も、街なみ環境整備事業地区において、歴史的・文化的資産でもある「こみせ」や建築物等の修景等への助成を行い歴史的景観の形成を図っていきます。

(2) 新たな拠点で人がにぎわう元気なまち(環境)

本分野では、中心市街地活性化基本計画に基づき、市役所窓口機能を有する市民サービス施設整備のため、旧大黒デパート解体工事に着手したほか、市民の長年の悲願である黒石市立図書館の整備に取り組みました。分野全体の実

令和2年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

施状況としては6事業中、A評価が2事業、B評価が3事業、C評価が1事業となりました。

特に「市立図書館の整備」においては、昨年度策定した黒石市立図書館整備基本構想・基本計画に基づく学びあう図書館、憩いと賑わいの図書館、市民の力を育む図書館の実現に向けて設計業務を行い、建設工事の入札を実施しました。また、市立図書館のIC化を進めるため、図書の自動貸出機の導入を計画し、事前準備として蔵書に自動貸出機に対応したICタグの貼付けを行いました。今後は、市立図書館の建設、条例・規則・運営計画等の策定や担当職員の司書資格取得に取り組めます。

(3) 移住人口・交流人口の拡大で元気なまち(観光)

本分野では、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったものの、観光事業者を下支えする事業を実施するとともに、インバウンドの受け入れ態勢の強化と市の魅力発信に努めました。分野全体の実施状況としては、20事業中、A評価が1事業、B評価が11事業、C評価が2事業、D評価が2事業、E評価が4事業となりました。

特に「インバウンドへの対応による交流人口の増加」においては、オーストラリア出身の国際交流員を昨年度から継続して任用し、市内事業者へのインバウンド対応への支援、外国人目線でのSNSによる情報発信、オーストラリアに向け食を通じた地方の魅力を英語で投稿するなど受け入れ態勢の強化と魅力発信に努めました。今後は、コロナ禍においても実施可能な事業を立案し、新型コロナウイルス感染症収束後には、反転攻勢できる体制づくりに努めます。

「黒石温泉郷の旅行者の受け入れ態勢の整備」においては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、宿泊・日帰りどちらも応援事業を実施し、宿泊事業者の支援に努め、新型コロナウイルス感染症の影響を軽減することができました。

「広域観光体制の充実とPR活動等の推進」においては、津軽圏域14市町村で構成される地域連携DMOが4月から正式に一般社団法人ClanPEONY津軽として発足し、広域観光の連携、推進の担い役として取り組みました。今後は、観光庁のDMO登録法人へ向けて引き続き作業を進めるとともに、連携構築のために重要な専門部会の組織等に早急に取り組み、広域観光の充実を図ります。

3 安心なまち

(1) 子育て支援と教育環境の充実で安心なまち(子育て・教育)

本分野では、妊娠・出産期からの切れ目のない支援を目指し、安心して子ど

令和2年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

もを産み育てやすい環境を整備するとともに、子どもたちの希望をかなえるための「学び」の環境を整える取組を進めました。分野全体の実施状況としては、30事業中、A評価が14事業、B評価が13事業、C評価が1事業、E評価が2事業となりました。

特に「算数・数学「UPる」事業」においては、学習をサポートする「UPる」先生を、小学校には4校に5人、中学校には2校に4人配置し、ティームティーチングにより児童生徒一人一人に対してきめ細かな指導を行いました。今後も、各校において、「UPる」先生を有効に活用し、よりきめ細やかな指導ができるよう、年3回行われる連絡協議会の内容をその時期にあったふさわしい内容になるようにし、充実を図っていきます。

「学校給食の充実」においては、小学校完全給食を実施し、地元産・県産食材を活用するとともに、必要に応じてアレルギー対応基準に基づいた対応を行うことで、安心安全な給食を提供しました。引き続き衛生管理の徹底及びアレルギー対応により安全な給食を提供します。

(2) 高齢者福祉の充実で安心なまち(福祉)

本分野では、より多くの高齢者が可能な限り自立した日常生活を送れるように、健康で安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、地域包括ケアシステムの充実を図りました。分野全体の実施状況としては、7事業中、B評価が5事業、C評価が2事業となりました。

特に「地域包括ケアシステムの充実」においては、生活支援コーディネーターが中心となり、地区振興協議会及び地区社会福祉協議会との連携を行うとともに、住民のニーズから、移動販売ルートの新規開拓を行い、上十川・六郷地区と山形地区で運用開始しました。また、黒石市地域介護予防活動支援補助金交付要綱を制定し、住民主体での介護予防活動が実施しやすい体制を整備しました。今後は、各々の地域において住民主体でニーズに対応できるよう、生活支援コーディネーターを中心にマッチングを継続していきます。また、住民主体の活動が、コロナ禍においても継続できるよう補助金制度の周知や担い手の育成など継続していきます。

「高齢者地域見守り事業」においては、民生委員や町内会等と適切に連絡を取りあい、情報共有に努めたことで延べ対象者11,587人のうち、98.4%の方々に訪問での見守りを行うことができました。今後も、事業委託先である地区協議会を始め、民生委員等と連携し、単身高齢者が地区で安心して生活できるよう見守りを継続していきます。

(3) 健康づくりの推進で安心なまち(健康・福祉)

本分野では、黒石市健康都市宣言に基づき、市民一人ひとりの健康的な生活

令和2年度第6次黒石市総合計画進捗状況のまとめ

習慣づくりや心の健康づくり、スポーツを通じた健康づくりなどを促進する取組を進めました。分野全体の実施状況としては、16事業中、B評価が11事業、C評価が3事業、E評価が2事業となりました。

特に「訪問指導」においては、疾病の発症及び重症化予防を図るため、がん精密検査対象者及び糖尿病性腎症等の重症化予防対象者に対し、受診勧奨を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、個々に応じた保健指導を実施しました。今後も、未受診者と治療中断者への受診勧奨を継続するとともに、疾病の発症及び重症化予防対象者へ個々に応じた保健指導を継続していきます。

「特定保健指導」においては、集団健診の特定保健指導対象者に対し、青森県総合健診センターに委託し、個別の指導を123人の方々に実施しました。今後も、自らの健康は自らが守るという意識の波及と規則正しい生活習慣の継続の重要性を周知していくとともに、医療機関と連携し指導実施率向上を図っていきます。

(4) みんなが暮らしやすい安心なまち(安心・安全)

本分野では、地震や豪雨による災害、事故などの危険から市民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト両面から取組を進めて危機管理や防災体制の強化等を図りました。分野全体の実施状況としては、16事業中、A評価が1事業、B評価が9事業、C評価が4事業、D評価が1事業、E評価が1事業となりました。

特に「弘前圏域空き家・空き地バンク」においては、黒石市空家等対策計画を策定し、空き家対策に係る基本的な方針及び計画を示すことができました。また、弘前圏域内の空き家・空き地バンクに登録された市内の物件は、空き家1件、空き地2件でした。今後は、黒石市空家等対策計画に基づき、空き家と思われる物件の所有者を調査し、利活用の意向を確認していくとともに、各種イベントで弘前圏域空き家・空き地バンク協議会や制度のPRを行い、登録件数の増加を図ります。

「総合的な防災体制の確立」においては、新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所受入訓練を行い、コロナ禍における防災意識の高揚及び危機対応力の向上を図りました。今後は、新型コロナウイルス感染症に配慮した防災訓練を継続するとともに、防災行政無線を活用した情報伝達体制の強化に取り組みます。